

万吉だより

MA

GECHI

NEWS

第36号 令和8(2026)年3月

萌芽の春

館長 岩本 篤志

この度、『万吉だより』第36号を刊行するのはこびとなりました。これもひとえに、当館の取り組みにご理解を賜り、足をお運び頂きましたみなさまのおかげと感謝しております。館を代表して御礼申し上げます。

本年は改正博物館法に基づく、埼玉県による実地調査が行われ、確認の結果、博物館に相当する施設として引き続き運営できることとなりました。法改正以来、申請準備等ご助力を賜りましたみなさまに、改めてお礼申し上げます。

さて、当館は前年にも増して活発な館運営を推進してまいりました。

令和7年5月には熊谷市立熊谷図書館との連携展示「立正大学を掘ってみた」を開催しました。これは熊谷キャンパス地下の埋蔵文化財包蔵地「鹿島遺跡」の発掘調査で出土した当館収蔵品より、熊谷市内最古の遺物である頁岩製ナイフ形石器などを、館内の郷土資料展示室に展示頂いたものです。同展示室が大学と連携展示を行うのは、初めてのことです。また、同図書館と本学図書館での共同事業としては同年11月の「子ども自然科学教室」の受入など連携を深めており、今後さらなる発展が期待されます。日蓮宗宗務院ならびに日蓮宗新聞社のご協力を賜りましたミニ展「児童文化研究部のあゆみ」では、児童文化研究部の前身の一つ「大学コドモ会」の作歌顧問であった山^{やま}上^{がみちゆせん}、泉が製作に携わった「日蓮聖人いろは歌留多（復刻版）」（熊谷図書館所蔵）を展示しました。

特別展示室におきましても「立正大学のスポーツ」や「立正大学地理学教室創立百周年記念地図展」など多彩な展示を開催し、特に「立正大学のスポーツ」は来室者が3,000名を超える盛況となりました。

館内利活用も活発で朝日遺跡や前浦遺跡、東金子窯跡群などの調査や、地方自治体からの貸出要請を受け入れています。さらに当館学芸員は学外講演・出前授業のご依頼を数多く頂き、地域文化の促進および教育普及に貢献させて頂いております。

収蔵品のデジタルアーカイブ化も、順調に進んでおります。当館収蔵品を広く世界に発信すべく、将来的にはジャパンサーチへの登録を学術情報セクター（MLA）全体のミッションとして掲げております。

初代館長をお務めになられた坂詰秀一先生（本学特別荣誉教授）が年報第1号に記された「近い将来、自然科学分野の資料なども随時加えて展覧に供することになっている」という道程も、少しずつ光が見えてまいりました。

長きにわたり雌伏の時を過ごしてきた当館をお支えくださいましたみなさまのお力添えにより、今日萌芽の春を迎えております。

引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

事業報告（博物館）

館務実習

今年度も博物館学芸員資格取得のため館務実習生を受け入れました。

実習生は文学部の計2名でした。

実習期間：7月28日(月)～8月1日(金)

※7月30日(水)を除く

8月4日(月)～7日(木) 全8日間

○1日目 7月28日(月)：

文化史に関する講義と資料梱包の実習

○2日目 7月29日(火)：

刀剣に関する講義と刀剣の手入れ実習

○3日目 7月31日(木)：考古資料の取り扱い

○4日目 8月1日(金)：館長講話・博物館施設見学
(熊谷市内)

○5日目 8月4日(月)：資料の展示に関する実習

○6日目 8月5日(火)：資料の展示に関する実習

○7日目 8月6日(水)：資料の展示に関する実習

○8日目 8月7日(木)：

古文書の取り扱い講義と整理



1日目（資料梱包）



2日目（刀剣の手入れ）



3日目（考古資料の取り扱い）



4日目（博物館施設見学）



7日目（資料展示）



8日目（古文書の整理）

展示企画

ミニ展 「地理学科創設100周年記念展示」

会期 令和 7 年 4 月10日(木)～5 月28日(水)
全27日 来館者数426名

ミニ展 「児童文化研究部のあゆみ」

こどもたちとあゆみ続けた113年

会期 令和 7 年 6 月13日(金)～7 月31日(木)
全30日 来館者数251名

館務実習生ミニ展

「立正大学博物館所蔵の古代瓦～文字瓦を中心に～」

会期 令和 7 年 8 月16日(土)～9 月27日(土)
全26日 来館者数112名

特別展示室企画展巡回展示

「立正大学のスポーツ」—KUMAGAYA SPIRIT—

会期 令和 7 年10月 2 日(木)～11月 3 日(月)
全33日 来館者数87名

パネル展「熊谷キャンパスのあゆみ」

会期 令和 7 年11月30日(日)～
令和 8 年 1 月10日(土)
全24日 来館者数139名

連携展示「立正大学を掘ってみた」

※熊谷市立熊谷図書館 郷土資料展示室での開催

会期 令和 7 年 5 月27日(火)～
令和 7 年 7 月 6 日(日)
全34日 来室者数580名

地域連携・社会貢献

熊谷市立熊谷図書館が実施している「子ども自然科学教室」を、本学図書館との MLA 連携に基づき、令和 7 年11月 8 日(土)に受け入れました。これは昨年度地域連携・社会貢献事業の一環として受け入れを行った、熊谷班退職校長会からのご縁により実現したものです。およそ50名の小学生・保護者が来館し、当館では高村弘毅名誉教授寄贈のコレクションより、アンモナイトと三葉虫の化石（アトラス山脈にて発掘）を公開し、化石になるまでの過程や山から海洋生物の化石が発掘される理由、吉田コレクションのうち称名寺貝塚出土品との対比による化石と遺物の違い、などを説明しました。



子ども自然科学教室

事業報告（特別展示室）

展示企画

特別展示室企画展「立正大学のスポーツ」

会期 令和 7 年 5 月14日(水)～8 月 7 日(木)
全65日 来室者数3,043名

立正大学品川図書館第53回企画展

「知を刻む：版元が紡いだ書物世界」

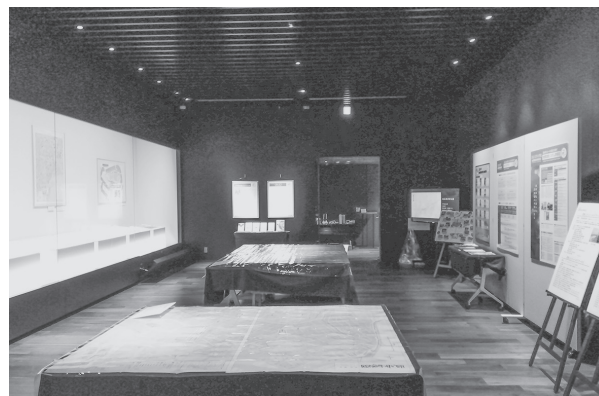
会期 令和 7 年10月 3 日(金)～10月30日(木)
全22日 来室者数504名



「立正大学のスポーツ」

立正大学地理学教室創立百周年記念地図展

会期 令和 7 年11月14日(金)～12月13日(土)
全21日 来室者数807名



立正大学地理学教室創立百周年記念地図展

運営委員会

令和7年度の博物館運営委員は、以下の通りとなります（敬称略）。

第1号委員（博物館長）岩本篤志

第2号委員（学芸員）大谷徹

第3号委員（学部長から1名）安中尚史

第4号委員（研究所長から1名）村尾泰弘

第5号委員（教職・資格教育センター博物館学芸員養成課程担当教員）小川義和

第6号委員（学識経験者から1名）島津弘

第7号委員（博物館事務課長）草川文博

館長推薦（学識経験者）寺尾英智

オブザーバー 藤井博義（担当副学長） 紺野英二（館務オブザーバー）

島田貴司（学術情報部長） 林あずさ（特別展示室学芸員 第2回まで）

吉田茉莉子（特別展示室学芸員 第6回より）

令和7年度 第1回博物館運営委員会

日時 令和7年5月7日(水)16時より
(オンライン開催)

議題

I. 審議事項

1. 令和7年度運営委員会スケジュールについて
2. 令和7年度事業計画について
3. 学外館との連携展実施について
4. 特別展示室企画展について
5. その他

5月22日(木)および9月18日(木)に開催予定
の学術情報セクター連絡協議会出席者について

II. 報告事項 ※報告文を配布

1. 令和7年度予算について
2. 令和6年度事業報告
3. 令和6年度決算報告
4. 博物館指定施設への再指定作業について
5. その他

令和7年度 第2回博物館運営委員会

日時 令和7年7月16日(水)16時より
(オンライン開催)

議題

I. 審議事項

1. 特別展示室常設展示案の策定について
2. 特別展示室企画展の巡回展示について
3. 博物館資料のデジタルアーカイブ化について
4. その他

II. 報告事項 ※報告文を配布

1. 令和7年度 館務実習日程

2. 博物館ミニ展実施報告

3. 令和7年度第1期 館内利活用報告

4. 熊谷市との連携展「立正大学を掘ってみた」
来館者報告

5. 博物館相当施設指定にかかる埼玉県の実査に
ついて

6. その他 第7号委員による館園視察報告

令和7年度 第3回博物館運営委員会

日時 令和7年10月1日(水)
(オンライン開催)

※報告事項のみのため質疑期間を設け、質疑期間終了をもって会議成立とした

議題

I. 報告事項 ※報告文を配布

1. 令和7年度 館務実習報告
2. 館務実習生ミニ展実施報告
3. 特別展示室企画展「立正大学のスポーツ」
実施報告
4. 図書館開館100周年プレ展示 開会報告
5. 巡回展示「立正大学のスポーツ」開会報告
6. 埼玉県による実地調査結果報告
7. その他
第7号委員による研修会参加報告、
館園視察報告

令和7年度 第4回博物館運営委員会（臨時開催）

日時 令和7年10月23日(木)
(オンライン開催)

※質疑期間を設け、質疑期間終了をもって会議成立
とした

議題

I. 審議事項

1. 特別展示室の所管変更について

II. 報告事項 ※報告文を配布

1. 特別展示室学芸員交代について

令和7年度 第5回博物館運営委員会（臨時開催）

日時 令和7年10月27日(月)10時30分より

(オンライン開催)

議題

I. 審議事項

1. 「立正大学地理学教室創立百周年記念地図展」の開催について

令和7年度 第6回博物館運営委員会

日時 令和7年12月17日(水)16時より

(オンライン開催)

議題

I. 審議事項

1. 副館長選任について
2. 立正大学博物館規程の改正について

3. 博物館資料の移管について

4. 令和8年度予算について

5. その他 館内撮影の可否について

II. 報告事項 ※報告文を配布

1. 収蔵品の台帳登録について

2. パネル展「熊谷キャンパスのあゆみ」開会報告

3. 巡回展示「立正大学のスポーツ」終了報告

4. 「子ども自然科学教室」終了報告

5. 「図書館開館100周年プレ展示」終了報告

6. 「立正大学地理学教室創立百周年記念地図展」終了報告

7. 授業内利活用報告

8. その他

博物館来館者および特別展示室来室者中間報告

第7号委員による館園視察報告

※議事録は文書管理システムにて公開しております(学内者のみ)

資料活用

◆館外利用

① 岩槻郷土資料館 企画展「ミミズク土偶の世界～埼玉のミミズク土偶大集合～」

会期：令和6年11月13日(水)～

令和7年2月24日(月)

会場：さいたま市岩槻郷土資料館 企画展示室

資料：川口市石神貝塚出土土偶6点

埼玉県内各地の遺跡から出土した約140点の「ミミズク土偶」が大集合！ 様々な表情を持ったユニークな土偶が勢揃い。当館からは石神貝塚出土のミミズク土偶6点を展覧しました。土偶の一つひとつに丁寧な解説文と背面の写真が添えられ、とても分かりやすい展示でした。



石神貝塚出土土偶

会場では、お気に入りの土偶を選んで投票するイベントも開催され、人気を博していました。残念ながら当館の石神貝塚土偶は第24位でした。

② 市立熊谷図書館 連携展「立正大学を掘ってみたー熊谷校地内遺跡発掘調査の記録ー」

会期：令和7年5月27日(火)～7月6日(日)

会場：熊谷市立熊谷図書館 郷土資料展示室

資料：熊谷校地内遺跡出土遺物 63点

(旧石器・縄文土器・土師器・金属器ほか)

博物館を飛び出し、市立熊谷図書館との初めての連携展「立正大を掘ってみた」を開催いたしました。



連携展「立正大学を掘ってみた」

熊谷キャンパスの地面の下には、大昔の人々が暮らした遺跡が眠っています。こうした大学構内での埋蔵文化財の保護活動を行う専門調査組織「大学埋文」の先駆けとして、昭和53（1978）年に熊谷校地遺跡調査

◆館内利用

① 神奈川県朝日遺跡の旧石器文化の研究

箱根山黒曜石原産地である芦之湯や畑宿に近接する旧石器時代遺跡として著名な箱根町朝日遺跡出土遺物の再整理作業を、昨年度から継続して実施しています。

近年、黒曜石原産地遺跡の重要性も増しており、資料を広く公開するために、旧石器時代研究者の協力のもと、資料台帳の整理、石器の実測等の基礎作業を行っています。今後は蛍光X線分析（非破壊）による黒曜石の化学組成の測定を予定しています。

② 茨城県前浦遺跡 縄文時代晩期の土器製塩研究

霞ヶ浦南岸に所在する稲敷市前浦遺跡の縄文時代晩期における製塩行為の実態解明を目的に、前浦遺跡研究会のメンバーを中心に出土遺物の悉皆調査を実施しています。

現在確認された製塩土器の破片数は8,200点を超え、低段丘上の第Ⅰ地点・第Ⅱ地点に集中する傾向が明らかになってきました。2m四方の小調査区ごとの製塩土器の分布状況を調べ、製塩行為復元のための基礎データが蓄積されています。

併せて、調査時にサンプリングされた自然遺物の整理作業も実施しました。第Ⅰ・Ⅱ地点を中心に、獣骨や鳥骨のほか、ハマグリ・シオフキ・アカニシ・マガキ・ヤマトシジミなどの貝類が出土しています。

③ 館蔵資料の三次元計測調査の実施

吉田格コレクションの中で異彩を放つのが、幕末から明治にかけて活躍した本草学者・植物学者である伊

室を設置し、令和2（2020）年まで断続的ながら59箇所の調査を実施してきました。今回はその成果の一端を、多くのみなさまに見学して頂きました。

藤圭介（1803–1902）の蒐集した石鏃などの石器類と勾玉・管玉などの玉類を9箱の木箱に収めた資料があります。箱に収められた資料の数は、総数266点を数えます。本来は、木箱の底に絹を敷いてきちんと並べて収納されていました。木箱は、蓋付きの重箱として、紐でくくられた状態で保管されていたようです。現存する木箱は、大きさと蓋・底箱の組み合わせから3組分の重箱だったと想定されます。

今回、立正大学考古学研究室の協力により木箱の三次元計測を実施し、劣化の進む木蓋に貼られた題箋や箱書の記録化を行いました。

今後は、木箱などを含めた全資料の図化と写真撮影などの記録化を進めるとともに、箱と紐や絹の劣化防止対策を講じながら、貴重な文化資源を後世に伝えることに取り組んでいきたいと思っています。



三次元計測の作業風景

◆資料紹介

ここでは、館蔵資料に関する資料調査をもとに発表された研究成果を紹介します。

① 熊谷校地内遺跡群一下原遺跡一の再評価

井上尚明「立正大学熊谷校地内遺跡群の古代の様相」『立正大学博物館年報』22 P24～27 2025年10月1日 立正大学博物館

熊谷キャンパス内に所在する古代集落である下原遺跡を題材に、遺跡の立地する地勢や周辺遺跡の様相からその出現背景について考察されています。

下原遺跡は、比較的短期間に営まれた小型竪穴住居によって構成された小規模集落の様相を呈し、特異な

すり鉢状の床面の遺構や、工房跡とされる遺構、さらには炭焼窯が集落内に存在することから、木炭を含めた生産に関わる丘陵地帯の遺跡としての性格が強いことを指摘しています。当遺跡は、丘陵地域の開発を巡る新たな研究の端緒となる、豊富な情報を内包する遺跡であると評価されています。

② 長野県下窯跡出土の凸帯付四耳壺

山田真一「長野県下窯跡出土の凸帯付四耳壺」『長野県考古学会誌』第166号 P1～19 2025年3月30日 長野県考古学会

長野県下の窯跡から出土した凸帯付四耳壺を集成し、

出現と展開、窯跡（群）ごとの特徴について概観され、当館所蔵の八重原窯跡や御牧ノ上窯跡で生産された凸帯付四耳壺について紹介しています。その出現にあたっては、美濃須衛窯跡群の系譜下に成立したことが指摘されています。

一方、凸帯付四耳壺は関東から北陸、東北地方まで広く分布が認められることから、伝統的な地域間交流

や東国経営政策の一端を垣間見ることのできる貴重な資料であると位置づけられています。

当館所蔵の埼玉県東金子窯跡群の八坂前窯跡からも凸帯付四耳壺が出土しており、武蔵国分寺七重塔再建という国家的事業に信濃の工人が動員された可能性も指摘されています。また、群馬県上小友窯跡でも凸帯付四耳壺の出土が確認されました。

刊行物

『立正大学博物館年報21』

令和4・5年度の博物館の事業等を報告した年報を令和7年2月1日に刊行しました。

〈B5版32頁、モノクロ〉

『立正大学博物館年報22』

令和6年度の博物館の事業等を報告した年報を令和7年10月1日に刊行しました。

〈B5版36頁、モノクロ〉

施設見学

本年は大変多くの方にご見学頂きました。学内利活用は博物館学芸員養成課程科目のみならず、基礎ゼミナールやオリエンテーション、レポートの課題としてご活用頂いた授業もございました。また、近隣の立正幼稚園様からもご来館頂きました。特別展示室では授業内利活用のほか、品川区のパートナーシップ協議会や卒業生の団体などにご来室頂きました。オープンキャンパス時の特別開館も再開し、多くの受験生に当館の取り組みをご覧頂きました。大学祭や保護者懇談会など、大学行事に合わせた特別開館のみならず、みなさまの要望にできる限り沿えるよう対応しますので、お気軽にご相談ください。

埼玉博連スタンプラリー

埼玉県博物館連絡協議会 東部・北部ブロックでは、彩の国ミュージアムスタンプラリーとして全加盟館・23館において、7月19日(土)～11月30日(日)にかけてスタンプラリーを実施しました。加盟館を見学し、6館達成すると埴輪貯金箱かオリジナルトートバックが、3館達成するとシャープペンシルが景品として贈られます(中学生以下を対象)。当館では3館達成者7名、6館達成者4名に景品を進呈しました。

スタンプラリーは埼玉県博物館連絡協議会 東部・北部ブロックの企画として定着しており、夏休み期間中を中心に多くの子どもたちが参加しています。当館では令和5年度に3館達成者1名、令和6年度に3館達成者2名に景品を進呈していますが、本年度はより多くの子どもたちにご来館頂くことができました。



利用案内

■ 博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

立正大学熊谷キャンパス内

開館時間：午前10時～午後4時（入館は午後3時30分まで）

入館無料

開館日：月～金曜日

休館日：土・日曜日および大学休業日

※企画により特別開館日・休館日がございます。

最新の情報はウェブサイトにてご確認ください。

交通機関

・熊谷駅（JR 高崎線、新幹線、秩父鉄道）

熊谷駅南口より国際十王バス立正大学行または森林公園駅行に
乗車（約10分）

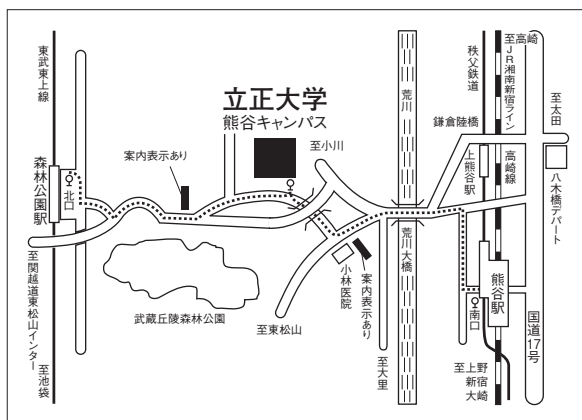
立正大学下車

・森林公園駅（東武東上線）

森林公園駅北口より国際十王バス立正大学行または熊谷駅行に乗車（約12分）

立正大学下車

ウェブサイト <https://www.ris.ac.jp/museum/>



■ ロータスギャラリー特別展示室

〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16

立正大学品川キャンパス150周年記念館内

開室日 火～金曜日 午前10時30分～午後4時30分

・時間（入室は午後4時まで）

予約不要・入場無料・見学自由

※企画により特別開室日・休室日がございます。

また春期・夏期は開室時間に変更となります。

最新の情報はウェブサイトにてご確認ください。

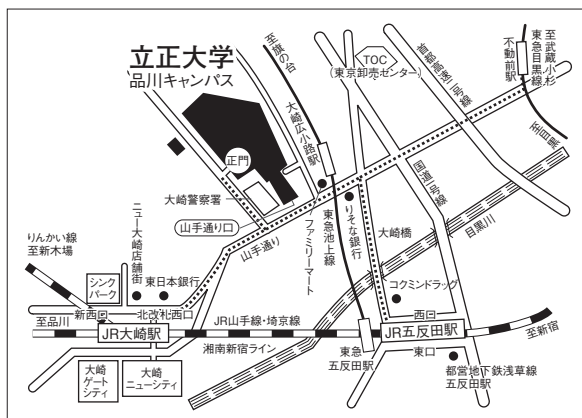
交通機関

・大崎駅（JR 山手線・湘南新宿ライン・埼京線・りんかい線）

・五反田駅（JR 山手線・都営地下鉄浅草線）各徒歩5分

・大崎広小路駅（東急池上線）より徒歩1分

ウェブサイト https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/lotusgallery/index.html



あとがき

博物館事務課が設置され2年目となりました。これまでの展示体制を維持しつつ、改正博物館法が示すさまざまな方向性を意識し、新たな企画に取り組んでまいりました。その結果、博物館は本年12月までの来館者数が1,132名となり、平成29（2017）年度以来の1,000名台を記録しました。また、特別展示室も12月までに4,354名の来室者を記録しました。卒業生や在学生はもちろんのこと、多くの方々が足を運んでくださる施設を目指し、3年目を迎えたいと思います。（草川）

立正大学博物館館報 万吉だより 第36号

令和8（2026）年3月1日発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL 048-536-6150

FAX 048-536-6170

E-mail: museum@ris.ac.jp

URL: <https://www.ris.ac.jp/museum/>

題字揮毫 田淵観斎（立正大学名誉教授）
（印刷：株式会社イーフォー）